**連合宮城2021春季生活闘争**

**2.26春季生活闘争勝利総決起集会アピール（案）**

われわれは、本集会において「誰もが希望を持てる社会を実現！安心・安全に働ける環境整備と『底上げ』『底支え』『格差是正』で」のスローガンのもと、2021春季生活闘争を粘り強く闘い抜く決意を改めて確認した。

私たちの暮らしは、かつてないほどの危機に直面している。新型コロナウイルスの猛威は未だ止まず、コロナ禍を起因とした倒産や、失業による収入減少といった深刻な事態が生じている。とりわけ、短時間・有期・契約等で働く者やフリーランスで働く者といったセーフティネットが脆弱な層は、仕事と生活の危機に瀕している。

今わが国に求められていること―――――。それは、国民一丸となった感染症対策とともに、日本経済を再び自律的成長の軌道に乗せることである。そのためには、社会全体で雇用の維持・創出に取り組むことを大前提に、労使の信頼関係の下で積み上げてきた「賃上げ」の流れを止めることなく、コロナ禍で社会機能を支えたいわゆるエッセンシャルワーカーや、社会基盤を支える中小企業や有期・短時間・契約等労働者の処遇を「働きの価値に見合った水準」へと引き上げていく、すなわち、「分配構造の転換につながり得る賃上げ」を実現していくことに他ならない。

2021春季生活闘争は、これまで経験したことのない環境下での取り組みとなるが、だからこそ労働組合の真価を発揮する時である。企業や職場の置かれた状況や「with/afterコロナ」の働き方も含めた課題を提起できるのは労働組合だけであり、職場や社会の未来を変えることができるのは、労働組合に集う私たち自身である。

連合宮城結成から30年。われわれは、先達が積み上げてきた春季生活闘争の流れを継承しつつ、将来基盤を築いていくためにも、組織内だけでなく、すべての働く者の処遇改善につながる「みんなの春闘」に果敢に挑戦していく。

「働くことを軸とする安心社会」を実現するため、連合本部、構成組織、地方連合会、各労働組合から職場に至るまで、総がかりで行動していこう。すべての働く者の「底上げ」「底支え」「格差是正」の実現こそが、日本社会の持続性を確保するための原動力である。組織の総力を結集し、最後の最後まで、ともに闘おう！

2021年2月26日

連合宮城2021春季生活闘争

2.26春季生活闘争勝利総決起集会